

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
大神山公園		(指定管理者名)公益財団法人 東京都公園協会 (団体の概要)都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業(指定管理者事業を含む)及び収益事業を行う。			
指定期間					
H28.4.1 ～ R5.3.31(7年間)					
2 施設名		3 収支(単位:千円)			
		令和3年度		令和2年度	
		金額		金額	
大神山公園		収入計		63,685	
		内 指定管理料		63,685	
		利用料金		0	
		支出計		63,499	
		収支差		186	
公園別支出額 ・大神山公園：62,566					
4 管理運営の概要					
<p><b>○新型コロナウイルス感染症拡大予防措置に係る取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手指消毒液等の設置や「新しい日常」を踏まえた園内掲示、イベント時の検温、ソーシャルディスタンスの確保のほか、職員のマスク着用、うがい手洗い等の徹底、サービスセンター内の換気やパーティションの設置等により、感染症拡大予防措置に徹底して取り組みました。</li> </ul> <p><b>○海ごみゼロに向けたマイクロプラスチック回収・啓発活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の巡回で大村海岸の漂着ごみを清掃するとともに、昨年度から継続しているマイクロプラスチック回収活動の参加者には新たに「SDGs貢献証明書」を発行し、普及啓発に努めました。「海ごみゼロウィーク」には、世界自然遺産センター、小笠原村、海上保安庁、NPO法人と連携し、大村海岸で島民や観光客と一緒に大規模な海ごみの回収を行いました。</li> <li>・活動について紹介するため、ビニール紐が絡まった子ガメを救助する動画を作成し、YouTubeに掲載したほか、東京ビッグサイトで開催された「JAPANPACK2022」のCLOMA事務局展示や小峰公園の収穫市で放映し、小笠原のウミガメ保護活動と海ごみゼロ活動について普及啓発を行いました。</li> </ul> <p><b>○世界自然遺産地域登録10周年及び東京2020大会を盛り立てる取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界自然遺産地域登録10周年50周年を記念し、小笠原世界遺産センターと連携し、小笠原にある多種多様なデザインマンホールを題材にした「父母横断！マンホールクイズラリー」を実施し、固有種のデザインのマンホールパネルを設置しました。世界遺産センターとの連携により、小笠原らしい新たなイベントを創出でき、自然豊かな小笠原の新たな魅力を発信することができました。</li> <li>・聖火リレーゴール地がお祭り広場となり、緊急事態宣言中の開催でしたが、村役場等関係各所が連携して安全対策を行いました。約300人の島民が集まりましたが、事故なく安全に実施することができました。島民ランナー3人が無事に聖火をリレーしてゴールする様子はニュースでも放映され、大会機運を盛り上げることができました。伝統的なビロウ葺きで補修したゲゲゲハウスも大神山公園のパークビューにふさわしい本来の姿で、テレビ中継に映り放送を見た島民からも喜ばれました。</li> </ul>					
5 管理状況（維持管理）					
<p>◆5月30日の「ごみゼロの日」から6月8日の「世界海洋デー」までの10日間を「海ごみゼロウィーク」として、世界自然遺産センター、小笠原村環境課、小笠原海上保安署、NPO法人BOISSと連携し、大村海岸で一斉清掃によるマイクロプラスチック回収・啓発活動を行いました。この活動を通じて、島内全域の海岸で198.8kgもの漂着ごみを回収することができ、世界自然遺産小笠原から発信する地球規模の環境保全の取組を推進することができました。</p> <p>◆園内全域で年4回行われるサービスセンター樹木点検員による樹木点検と本社樹木医による樹木診断に加え、島の樹木に詳しい父島在住の樹木医による樹木診断を3本実施しました。コミュニティ広場のシンボルツリーになっているガジュマル2本と清瀬トンネル出入口のテリハボクについて、精密診断した結果をもとに、今後、効果的な剪定を行っていく計画につなげることができました。</p> <p>◆超大型台風の上陸に備え、隣接する保健所上の斜面に生えている幹周1m以上もあるモクマオウを2本伐採しました。近隣住民から「これで台風が来ても安心できる。」と喜んでいただきました。また、冒険遊戯広場付近のハイビスカスの生垣を、半分程度の1mと小学生の目の高さまで刈込むことで見通しを改善し、子どもたちが安心して毎日通学できるように安全な環境を創出しました。</p> <p>◆世界自然遺産小笠原の固有植物について、園内の植栽から採取した種を成分の異なるいくつかの土壌を用意して試験播種し、発芽率や生育速度を観察しながら増やす取組を行いました。また、園内では、NPO法人小笠原野生生物研究会と連携し、固有種の植栽、モニタリング調査、外来種駆除、食害防止などを複合的にを行い、小笠原諸島の自然環境、植生に配慮した管理を行い、稀少種・貴重種の保全に大いに貢献しました。</p>					
6 利用者アンケート結果					
実施方法：公園内で調査票を配布・回収/QRコード掲示によるWEBアンケート					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員への対応
大神山公園	4.8	4.6	4.5	4.8	4.7
7 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
大神山公園	315,157	コロナ禍の来島自粛が続く中、島民の憩いの場としての役割を果たすことができました。			
合計	315,157				



# 大神山公園

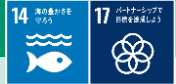
所在地：小笠原村／開園面積：15.31ha



## 世界自然遺産小笠原の玄関口 Discovery Park 大神山公園

### 「海ごみゼロ」へ挑戦！マイクロプラスチック回収・普及啓発活動

事業計画 No.3-②-24・31・32、③-3・44、No.4-都-1／評価区分 3、21



関係各所と連携した大規模な回収イベントの開催！

島民と観光客の協力で、島で一番きれいなビーチを維持することができました！



職員が毎日の巡回で行う海岸漂着ごみ清掃の他に、大村海岸を訪れる観光客へ昨年度から継続しているマイクロプラスチック回収・啓発チラシを配布し、回収に参加してくれた方にはSDGs貢献証明書を発行しました。これには島の子どもたちも日々の活動が評価され、とても喜んでいました。

#### SDGs貢献証明書もらったよ！



「海ごみゼロウィーク」で世界自然遺産センター、小笠原村環境課、海上保安署、NPO法人（BOISS）と連携し、大村海岸で島民や観光客と一緒に大規模な海ごみの回収を行いました。

小笠原高等学校の生徒と小笠原海上保安署と連携した回収活動を撮影した、マイクロプラスチック回収・啓発動画を JAPAN PACK 2022 (日本包装産業展) のCLOMA事務局ブースで放映し、約1,000人の来場者に大神山公園での活動の重要性を広くPRすることができ

ました。

#### ウミガメの保護など繁殖環境保全の取組を広く周知

シーズン中毎日行っている大村海岸のウミガメの産卵巣巡回で、孵化したウミガメの赤ちゃんの中にプラスチック紐が絡まり動けなくなっていた個体を発見しました。職員が保護し紐を除去した様子を撮影し Twitter 投稿したところ 過去最高のいいね数 614 を記録し、大神山公園で行っている ウミガメ繁殖環境保護の取組 を広く周知することができました。



職員によって救出されたウミガメ

### 世界自然遺産小笠原にふさわしい聖火リレーゴールの演出！

事業計画 No.3-②-71／評価区分 2、31



聖火リレーのゴール地が大神山公園に決定！ 景観と安全に配慮して実施しました！



聖火リレーを走った3人の島民

聖火リレーゴールセレモニー当日は緊急事態宣言中だったため、ゴール後のセレモニーは中止になりましたが、関係各所が連携して対策を行い、島民ランナー3人が無事に聖火をリレーしてゴールし、島民 **300** 人がお祭り広場に集まったがトラブルなく実施できました。伝統的なビロウ葺きで補修したゲゲゲハウスも大神山公園のパークビューにふさわしい本来の姿で、テレビ中継に映り放送を見た島民からも喜ばれました。



## ウインドサーフィン授業中の発災を想定した地域連携避難訓練

事業計画 No.3-①-5・12、③-10・16・20/評価区分 13、15



### 小笠原高等学校と初の連携による南海トラフ沖地震を想定した避難訓練の実施

村の震災対策マニュアルに沿って、大村海岸から避難所に指定されている高台の小中学校まで職員が避難誘導しました。訓練には全生徒及び教員約**60**人が参加し、関係各所の連絡先を記入し、防水加工をした**緊急連絡カード**を配布。実際の発災時の避難行動を確認することで、防災意識の向上につなげることができました。



大村海岸に集合



高台への避難経路確認



配布したカード

## 教育機関と連携した環境学習の場としての公園作り

事業計画 No.3-②-5・9・31、③-38、No.4-都-5/評価区分 6、22



### 小学生がデザインした園地「公園を作ろう!」の開催

小笠原小学校、NPO法人、造園会社、植物調査員と連携し、**小学4年生の総合学習プログラム「公園を作ろう!」**を継続実施し、子どもたちが学校前広場の園地デザインを設計しました。**東京都レッドリスト絶滅危惧1A類ムニンツツジ**等の植栽を、感染症対策をしっかりと行った上で、初めて**子どもたちの手で行いました**。子どもたちが日常的に利用する広場を、**貴重な固有種を育み観察できる場所**として生まれ変わらせることができました。



園内の植生を観察

センター長による授業



子どもたちによる植栽工事



完成した園路と花壇

### 小笠原高等学校の生徒が自ら開拓し、固有種を育む森づくり

小笠原高等学校、NPO法人と連携し、**高校1年生の総合的探究の授業**として、ギンネム、ササ等の外来種駆除やアカテツ、テリハマボウ等の**固有種の植栽を継続実施**しました。作業を通じて故郷小笠原への愛着を深めてもらうことができたこの取組は、**学校連携の好事例として「公園・夢プラン大賞2021」で優秀賞を受賞**しました。



外来種を駆除して開拓



高校生たちによる植栽



園地に立てた看板